

Anniversary
AOI
15th

AOI通信

静岡音楽館倶楽部情報誌
DECEMBER 2010 No.60

冬号

インタビュー

田村博巳

奥州平泉・毛越寺の法会

子どもたちの未来のために・・・
AOIの5つの事業

コンサートレポート

調律師とピアノ

AOIゆかりのアーティスト

坪井貞夫さん

(磐田バッハ合唱団 代表)

出演者から出演者へ
.....手紙リレー

インタビュー 田村博巳

2010年度に開館15周年を迎えた

静岡音楽館AOI。クラシック、現代音楽、伝統芸能

などさまざまな分野のプロフェッショナルが

企画会議委員を務め、

AOIならではの画期的なプログラムを

発信し続けている。

今年度の締めくくりは2011年3月に

開催する「奥州平泉・毛越寺の法会」。

日本の貴重な伝統芸能を舞台芸術に

アレンジし、静岡へ招聘し続ける

企画会議委員・田村博巳さんに

お話をうかがった。



一千年の《延年の舞》が、 2011年、静岡に

今回上演する『奥州平泉・毛越寺の法会』は、平安時代から天台宗の大寺院に連綿と伝わる秘仏・摩多羅神の祭りです。摩多羅神は鼓を手に踊っている容姿から芸能の神様として重んじられています。祭りの後、当時流行の諸芸を尽くして祝ったのが「延年」で、「能」が成立する以前の伝統芸能として親しまれていましたが、京や奈良では江戸時代までに廃絶し、奥州平泉の地でかろうじて残りました。

毛越寺は平泉随一の大寺院で、中尊寺を超える威容を誇っていました。現在、創建時の威光を伝えるのは、平安期の浄土式庭園がほぼ完全な形で残る日本庭園史上屈指とされる庭園（国指定特別名勝）と延年の舞（国指定重要無形民俗文化財）だけ。1月14日から始まる《常行三昧供》の結願日（1月20日）夜の二十日夜祭で奉納されています。本尊や大伽藍や堂塔など形あるものは焼失し、本来ならもっとも早く消滅するであろう無形の芸能が、一千年を経てなお平安当時をよく伝えているという事実には、本当に心打れます。

江戸時代の記録に残る 平安の舞

「延年」をAOIの舞台で披露する上で参考にしたのは今から200年ほど前に菅江真澄（1754～1829）という流浪の国学者が残した日記で

した。菅江は三河（現在の豊橋市あたり）生まれ。国学や本草学を学んでフィールドワークに出て、信濃～出羽～奥羽～蝦夷地まで長い旅をした後、久保田城下（秋田市）で秋田藩の地誌づくりに取り組み、仙北郡神代村（秋田県田沢湖町）で現地調査をしているときに亡くなった、という人です。

平泉を訪ねたエピソードは、彼が南部・津軽路を歩いた時の日記「かすむ駒形」に登場します。227年前の天明5年（1785）1月20日、菅江は「きょうは磐井郡平泉の郷にある常行堂で摩多羅神祭を見ようと社前にいたり額ずいた」と書き始め、天台宗根本法儀のひとつ常行三昧の念仏唱誦、阿弥陀経聲明などを織り込みながら、呼立、田楽躍、唐拍子、若女・禰宜、老女、花折と「延年」の雅な世界を描写します。

伝えるべきものの存在を 知る努力を

私は実際に《延年の舞》を毛越寺で観て深く感動し、東京・国立劇場での上演をはじめ、いろいろ企画したのですが、すんなり実現するものばかりではありませんでした。平泉の伝承者たちは、毛越寺以外の場所で演じることに不安があったと思います。

かつては、延年の所作や台詞や音楽は、代々の伝承者が口移しで伝えたものでした。そんなとき救いとなったのが訪問者として最初に記録をとどめた菅江真澄の『かすむ駒形』でした。長い間、地元平泉の人しか観ることのできなかった貴重な伝統芸能を、2011年の静岡で再

現できるのも、元を辿れば平泉をたまたま訪ねた菅江真澄が伝承してくれたおかげです。これは本当に価値あることだと思います。

今回の舞台では、「かすむ駒形」の記述を和泉流狂言師・奥津健太郎さんのナレーションで紹介します。

日本の伝統芸能を伝え 残す力が地方ホールにある

能や文楽を上演できるのは、伝承者を育ててきた歴史の積み重ねがあつてこそ。私は、静岡音楽館AOIの「子どものための音楽ひろば」小中学生を対象に伝統芸能のワークショップを開いていますが、子どもたちはふだん接点のない世界だけに非常に興味を持ち、70～80歳の人間国宝級の実演家が「ただ好きで好きで、ずっと続けてきただけなんですよ」などと話すと、素直に感動するんです。そこでまず、学校の先生方に理解していただく必要があると考え、国立劇場では数年前から先生を対象にしたワークショップも開催しています。静岡市内でも開けると嬉しいですね。

日本には雅楽、能、狂言、歌舞伎、文楽など実に多様な伝統芸能があり、古いものは新しいものに淘汰されることなくしっかり残っています。現代の我々にも鑑賞する機会があるにもかかわらず、実際、定期的に観られるのは国立劇場ぐらいしかありません。AOIのような地方のホールが、こうして上演の機会を作ってくれるのが救いです。日本の伝統芸能を保存・振興する上で、地方ホールが果たす役割は本当に大きいと実感しています。



奥州平泉・ 毛越寺の法会

2011 3/13 日

14:00 開演 (13:30 開場)

静岡音楽館AOI ホール (8F) 全指定 ¥4,000
(静岡音楽館倶楽部会員 ¥3,600) 22歳以下 ¥1,000

静岡音楽館AOI「奥州平泉・毛越寺の法会」イベント

ギャラリーツアー&聲明コンサート

仏の教え・祈りの歌ー「二菩薩釈迦十大弟子」に導かれて
学芸員とともに展示室で作品を鑑賞したのち、閉館後の展示室にて
棟方の代表作「二菩薩釈迦十大弟子」の前で、「天台聲明 七聲會」
による聲明をお楽しみ頂きます。

2011 3/4 (金) 18:30～20:00 (受付開始は18:00)

出 演：天台聲明 七聲會 (末廣正栄・室生述成・林尚順)

会 場：静岡市美術館 展示室

参加料：1,500円 (展覧会観覧料含む)

定 員：60名 (応募多数の場合は抽選)

申 込：HP申込フォームまたは往復はがきにて (2月15日 (火) 必着)

※1件につき2名様まで

〔往復はがき記載事項〕
①催事名、催事日 ②氏名 (参加人数分) ③年齢 ④住所 (郵便番号から) ⑤電話番号

返信面に宛先を記入のうえ静岡市美術館まで

田村博巳

1955年、東京生まれ。79年、慶應義塾大学文学部社会学科卒業。
81年より国立劇場（日本芸術文化振興会）勤務。現在、日本芸術文化振興会芸能部副部長。民俗芸能、雅楽、聲明（仏教音楽）を中心に日本の伝統芸能公演を企画制作し、民族儀礼や口頭伝承の研究に立脚した創作を舞台芸術作品として構成演出する。また、古典芸能の保存・継承とともに、作曲家等と協同して伝統の素材を現在の視点でとらえた意欲的作品を数々発表する。これまでに、国立劇場（88～99年）および国立文楽劇場（2004～06年）主催の公演制作をするほか、本多劇場劇小劇場プロデュース公演伝統芸能シリーズ「楽の庭Ⅰ～Ⅳ」（97～2000年）やスバイラル聲明コンサートシリーズ「千年の声Ⅰ～Ⅳ」（98年～現在）などで継続的に演出している。

どこでもAOI

世界的ピアニストであり作曲家でもある、当館芸術監督、野平一郎が、静岡市内の小学校で開催するミニ・コンサート。

野平一郎 ピアノ・ミニ・コンサート

9月29日(水)10時30分～11時30分
静岡市立清水小学校 体育館

■プログラム

L.v.ベートーヴェン：エリーゼのために
F.ショパン：〈小犬のワルツ〉op.64-1、〈華麗なる大円舞曲〉op.18
武満徹：うたうだけ ほか

谷川俊太郎さんの詩の朗読をしてからの演奏。
子どもたちもじっと聞き入っていました。

「夢についてのお話」

清水小では「夢をもつことの大切さ」を子どもたちに伝えているとのことから、野平先生にも「夢」についてのお話をして頂きました。

野平先生がフランスに留学したときに師事したロジェ先生は、当時最愛のご主人を亡くされ、深い悲しみを抱えていらっしゃいました。しかし、生徒の野平先生にはそのような悲しみを抱えているとは全く気がつかないほどパワーのあるレッスンをしてくださいました。その後ロジェ先生から、「音楽があったからこそその悲しみを乗り越えることができたのよ」というお話を聞いて、とてもびっくりすると同時に、「人生にそんなに悲しいことが訪れるとは、当時若い自分には想像できなかった」とお話されました。

しかし、野平先生にも昨年、お母様を亡くすという大変悲しい出来事が訪れたのです。「とてもとても悲しい気持ちになった。そのとき、やはりロジェ先生と同じように、音楽があったからこそその悲しみを乗り越えることができた。何かに夢中になる時間があったからこそ、悲しみを乗り越えられた。人は悲しみを乗り越えなければいけない。君たちにもこれからそういうことが起こるかもしれない。その時に、自分にとって夢中になれるものがあることはとてもいいこと」と、子どもたちに夢をもつことの大切さをお話されました。

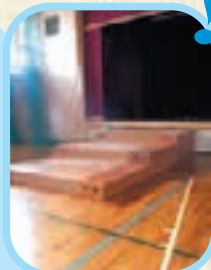
また、「やめたいと思うときはありますか？ そういう時はどのように克服しますか？ どうしたら素敵な音が出るのですか？」という子どもたちからの質問にも、「この年になっても出来ないことがたくさんあって、それを出来るようにするために毎日音楽と向き合うんだよ。真剣に向き合うことがとても大切。それから、真剣に向き合ったりコツコツ練習を続けたりするためには、まず音楽を好きになることが大事。なんでも好きになると夢中になってあっという間に時間も過ぎてしまうよね」。

野平先生のお人柄が伺える、とても心に響くお話でした。きっと子どもたちが何年後、何十年後にこの日のことを思い出すのではないのでしょうか。

出張コンサート

アイデア1

誰もいない朝7時の体育館！
こんな風に大きな階段を作ってステージにあるピアノを降るすのも、より楽しんでもらうためのアイデア。



7時30分から調律スタート！

10時30分、子どもたちが続々と会場入り。今日は何聴くのー？



あれ、学校のピアノ
こんなにいい音が
するの。じっと聞き
入る子どもたち。



アイデア2

今回からのアイデア！みんなに鍵盤
が見えるようにするため、コンサートの
半分でピアノを180度回転！



緊張しながらの
質問コーナー。

特別支援学校の 子どもたち見学会

10月 5日(火)10時～11時30分 静岡市立井宮小学校
11月17日(水)10時～11時30分 静岡市立清水飯田小学校

AOIでは、毎年「特別支援学校の子どもたち見学会」を開催しており、オルガン演奏を楽しんでもらったり、実際にオルガンを試演したりと子どもたちに広く開放しています。今年は、市内の小学校2校からの申込みを受け、10月、11月にそれぞれ開催しました。毎年、オルガン奏者のマリア暮林美歌里さんが無償協力をしてくださり、子どもたちはJ.S.バッハの〈トッカータ〉、それから暮林さんの素敵なアレンジによる童謡〈ぞうさん〉を聞きました。

特等席で鑑賞。



オルガン奏者のマリア暮林美歌里さん。



来年もまた会いましょう！

音楽つてやつぱり楽しいね

静岡音楽館AOIでは、子どもたちのための事業も幅広く展開しています。

AOI・レジデンス・クワルテット 子どものための 弦楽四重奏

10月23日(土)15時開演

毎年行っているAOI 専属弦楽四重奏団のコンサート。結成15年目に
して初めて「子どものためのコンサート」を企画・開催しました。そこ
には様々な工夫とアイデアが盛りこまれています。例えば…

アイデア1

1曲の演奏時間が短く、
あきずに安心して聴けるプログラム

アイデア2

古い曲から新しい曲まで、
世界各国の様々な音楽が楽しめる！

アイデア3

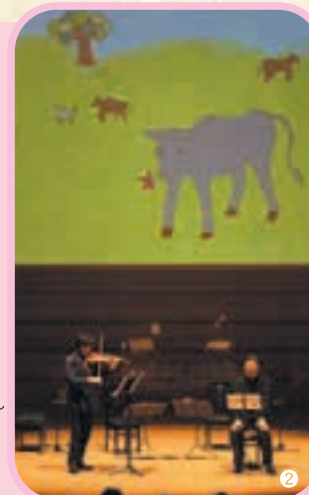
「子どものため」でも演奏は超一流！

アイデア4

普段、コンサートの中でアーティストが話をすることはまれ。
今回は楽器の紹介①をしたり、スライド上映と朗読による
音楽《子牛のフェルジナンド》②など、
子どもが音楽を身近に感じる工夫が満載。

子どもにも上質な音楽を

松原勝也さん
ヴァイオリン



スライド上映と演奏
家による朗読・音
楽が一層想像力豊
かに湧き出します！

なんとチェロ奏者
の河野文昭さんによる朗読！

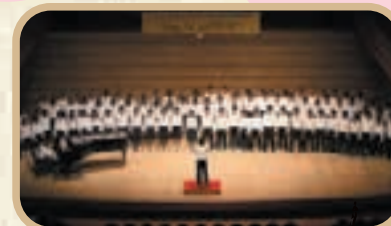


ヴァイオリンとヴィオラ
の大きさを比べ、音には
どんな違いがあるかな？
(小林美恵さん・川本
嘉子さん)

共催事業「校内音楽会」

AOIでは、市内小・中学校で実施される「校内合唱コンクール」や「音楽鑑賞会」をAOIと共催することで、コンサートホールや講堂等が無料でご利用いただける「校内音楽会」事業を実施しています。今年度は、静岡市立安倍川中学校、中島中学校の皆さんにご利用いただきました。

他にもいろいろ



【連携事業】来・て・このちっちゃな働きマン

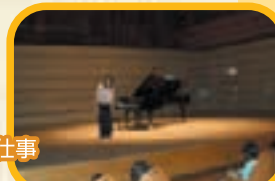
「音楽館のお仕事を学ぼう」

11月13日(土)10時～12時

健康文化交流館「来・て・こ」の講座の参加者21名がAOIのお仕事を学びに来てくれました。芸術監督や舞台照明・音響のスタッフ、清掃スタッフ、調律師…とAOIは、たくさんの人の力に支えられて運営しています。

今回は特別に、松尾楽器商会の調律師・倉田尚彦さんにピアノの内部を見せていただきながら、調律師さんの仕事を教えていただきました。なんとその調律されたピアノで須関裕子さん「ピアノ伴奏法講座受講生」が素敵な演奏をしてくれました。

ピアニストの仕事



調律師の仕事



音響・照明の仕事



AOIはみんなにまねられていきます

《ゴルトベルク変奏曲》の美

J.S.バッハのかずかずの作品に、幾何学的な、数理的に美しい構造をみることができる。そのひとつに後期の大作《ゴルトベルク変奏曲》がある。2段鍵盤のチェンバロのための作品で、優美なアリアと、その低音部を主題とする30の変奏曲からなる。第16変奏に〈序曲〉があって、つまりここで30の変奏曲はきちんと2つに分けられているのだが、とはいえ、第3変奏から3曲ごとに厳格なカンガが置かれていて、一貫した論理性をも備える。カンガとは、輪唱がそのひとつだが、ある旋律を他の声部が「追奏」する技法。《ゴルトベルク変奏曲》にある9つのカンガは規則的に配されているだけでなく、順に、追奏部の音高が1音ずつ高められてゆくという、さらなる規則性も重ねられている。第30変奏が10度のカンガではないのは、3という数が強く意識されているからだろう。アリアと30の変奏曲、そしてまたアリアが奏され、ぜんぶで32曲、アリアそのものも32小節からなり、16小節でリピートする。アリアはまさしくこの作品の核なのである。

なぜバッハはそんなふうにして音楽を創るのか。彼にとって音楽とは、自らの感情を吐露するためのものではなく（そもそもこの時代くらいまで、芸術音楽とは基本的にそういうものではなかった）、神の秩序にあって、人智を超えた（聴いただけでその構造を理解することは難しい）精緻な音楽的宇宙の美を自らの手で生みだし、神に捧げることであった。その点で、宮廷に仕えたときでも、バッハはあくまで宗教者だった。

ただ、そのように理論的に設計された音楽であっても、それを聴いてまったく堅苦しく感じないのは、初めのアリア〈歌〉の美しさのためだ。また、第30変奏のクオドリバット、それは、よく知られたいくつかの旋律を組み合わせる技法で、ここでは2つのドイツの民謡〈長いあいだおまえから離れていた〉と〈キャベツとかぶらが私を追い出した〉が用いられているが、「キャベツとかぶら」は「取るに足らないもの」の比喩で、それによって（というのはバッハの謙遜だ）あの美しいアリアが30曲ものあいだ聴かれなかった、というユーモアが秘められている（と解説してしまうのは無粋だが）。そして第30変奏のあとで、初めのアリアがそっくりそのまま再現される。ああ、なんて美しいだろう。

アンドレアス・シュタイアー チェンバロ・リサイタル

2011 2/6(日)
15:00 開演 (14:30 開場) ※このコンサートに体験はありません。
静岡音楽館AOI ホール (8F)
全指定 ¥4,000 (静岡音楽館倶楽部会員 ¥3,600)
22歳以下 ¥1,000



Andreas STAIER

連載③

調 律 師 と ピ ア ノ

第1回で調律について、第2回（前回）では鍵盤やアクションの調整についてお話したこの連載も第3回目となりました。今回は整音という仕事について取り上げますが、これはピアノの弦を叩くハンマーの硬さを調整したり形を整えることによって、ピアノの音色を最適なものに作る作業です。整音が上手く施されていないと、キンキンした金属的な音、あるいはベンベンと厚みのない音、もこもここもった鈍い音しか出ないなど、好ましくない音のピアノになります。ピアノのハンマーを打楽器のバチ（マレット）に例えると、同じマリimbaでも硬いプラスチックのマレットで叩いた場合と、柔らかい毛糸を巻いたマレットを使った場合では、全く違う音がするはずです。たとえばカンカンと硬い音がマリimbaから出ていても、それはマレットの硬さによって、マリimba本体の固有の音だとは思われない事でしょう。しかしピアノの場合、ピアノ本体の個性と、整音による音色の問題が混同されてしまっていることが多いように思われます。ピアノには一台一台個性がありますが、モコモコ、キンキン、ベンベンといったネガティブな音色の形容をされるピアノは、ほとんどが本体の個性ではなく、整音の問題なのです。演奏会の現場ではこのように全体の音質が問題になる場合もありますし、一台のピアノに並んだ88個のハンマーの各々の硬さの違いによって、部分的な音色のムラが出るという問題も生じます。例えばある音だけが繰り返し強い音で弾かれると、そのハンマーは打鍵の力でハンマーのフェルトが突き固まり硬い音になっていますし、あるいは湿度の上昇によって表面のフェルトが膨れ上がり、音が鈍くなってしまう事もあります。そこで、演奏会の前にこれらの音ムラを急急に調べて、揃えておくのも調律師の重要な仕事なのです。これらの不揃いは一個のハンマーの全体的な硬さのバランスに問題がある場合もあれば、わずかに弦に接触する表面だけの硬さが問題になっている場合もあります。さらに左ペダルを踏んだ時は、ハンマーと弦が当たる場所が変わりますので、別に調べて音色が一段とソフトになって揃っているかも調べなければなりません。整音は英語ではヴォイスイング、ドイツ語ではイントニーレンと呼ばれピアノの発声や発音を作ると



いう意味が込められています。ちょうど声楽や管弦楽器奏者が、地道な発声練習や基礎練習を通じて自分の声帯や楽器から常に一番良い声や音を引き出す努力を惜しまないように、私たち調律師も自分自身の音に対する感覚を磨きながら、それぞれのピアノが、ピアニストの幅広い演奏表現に答えながら最も美しく響くよう、きめ細かい整音を繰り返し施しています。

松尾楽器商会 調律師 倉田尚彦

AOI ヲガリの アーティスト

AOIでは、静岡の演奏家の活動を支援し、一緒にコンサートをつくる「コンサート企画募集」事業を行っています。企画が採択され、2月に演奏会を開催する、「磐田バッハ合唱団」代表の、坪井貞夫さんにお話を伺いました。

坪井貞夫さん（磐田バッハ合唱団 代表）

企画募集事業でのコンサートは2度目ですね。
今回の応募のきっかけを教えてください。

昨年2月に東京の浜離宮朝日ホールで、同じバッハのロ短調ミサ曲の演奏会をしました。すべて古楽器・バロック唱法で演奏し、大変評価を得たため、ぜひ地元の皆様にも聴いていただきたいと考え、応募しました。

AOIのホールの印象や、何かエピソードがあればお聞かせください。

前は2004年に、やはりバッハ作曲【モテット全曲演奏会】をさせていただきました。私たちのようなバロック唱法（ビブラートをとり、静かに響きませる）の演奏スタイルにはぴったりの、大変響きの良いホールです。また、その演奏のCDが評価され、2008年オーストリア第二の都市グラーツで行われた「世界合唱オリンピック」に参加する機会を得て、銀メダルをいただきました。

今回は、バッハのミサ曲、全曲演奏会とのことですが、
バッハの魅力は、どんなところですか？

ロ短調ミサ曲は、礼拝に使用するためでなく、バッハの就職活動用として生み出された作品なのです。音楽史の名曲に数えられるほどのこの曲を、今でいう“就活”で作曲してしまうバッハはすごい人です。最初の4小節は特にスゴイです。この後2時間にも及ぶ大曲に、皆様を引き込むのに十分です。また、典礼文のテキストとの素直な対話も魅力です。



演奏会の聴きどころや、
意気込みなどを教えてください。

磐田バッハ合唱団（IBC）は常に1音の「響き」に心をこめて歌っています。そこから生み出されるポリフォニー（※）の美しさを、皆様にお届けしたいです。

※同じテーマを各声部（ソプラノ/アルト/テノール/バス）がつぎつぎに歌う。

CONCERT REPORT

コンサートレポート

（驚異! 5台のピアノの競演）

10月14日（木）レポート

藤枝 守（作曲家、九州大学大学院教授）



D.ミヨー：ノリ

一台でまとまりのある完結した響きが得られるピアノ。それが、このように複数台集めて演奏されると、ピアノが置かれたそれぞれの場所のもつ微妙な反響の違いが作用するためか、会場全体に響きの乱反射が生みだされる。それがあの雑踏感を醸し出していたのかもしれない。しかしながら、ミヨーに続くモートン・フェルドマンの《4台のピアノのための作品》では、そのピアノの響きが一変する。「音のしずく」とでも形容できるような点描的な響きがエコーのようにさまざまな時間差をとまって4台のピアノからたち現れてくる。呼び交わされ、ずれあう「音のしずく」に聴き入りながら、最近、読んだばかりの文化人類学者の今福龍太さんの連載の冒頭に引用されていたロラン・バルトの短いフレーズをふっと思ひ出す。「人生の絨毯の上に木の葉のように舞い落ちてくるもの」というそのフレーズは、「偶景」という偶発的な出来事を言い表そうとしたもの。4台のピアノによって織り込まれていくフェルドマンの音楽にもこのフレーズがそのまま当てはまるように思われた。たった一枚の同じ楽譜を共有することによって4人のピアニストのあいだにうまれる偶有に満ちた関係。そこに「偶景」としての日常の出来事を感じる一瞬があった。



P.ガーランド：魔よけ

今回のために委嘱されたガーランドの新作《魔よけ》では、4台のピアノは、また異なる振る舞いや様相をみせる。その無機的で乾いた音の連なりは、ゆっくりと歩きながら、その移り変わっていく情景をみているようでもある。アメリカ固有の土着に目覚め、その土地から立ち上げる情感を散文詩のように飾り気のない音楽で語ってきたガーランド。4台のピアノは、ボソボソとつぶやいたり、一緒に声を合わせて歌っているようにも聞こえる。ガーランドは、チリ／メキシコの作家、ロベルト・ボラーニョの同名の小説からこの作品を着想したとのことだが、まだ読んだことのないこの小説のシーンを4台のピアノの語り合いのなかから想像することができる。



M.フェルドマン：4台のピアノのための作品

そして、最後の作品となったのがフィリピン

作曲家、ホセ・マセダの大作《5台のピアノのための音楽》。高橋悠治の指揮により、高橋アキ、藤井一興、寺嶋陸也、長尾洋史、そして野平一郎という今回の出演者全員の演奏となった。オクターブの音程が散りばめられた音型がときどき現れたり、雨の降り出しや波のうなりを連想させる音型など、次になにか起こるのか不明なままに展開していく。そのたゆたうような音の変容は、指揮の身振りからも伝わってくる。

近代という時代の楽器のシンボルであったピアノ。それがこのようにかたちで群がったとき、均質化した時代の響きをたやすく乗り越えていくことを実感する一晩だった。



J.マセダ：5台のピアノのための音楽
撮影：日置真光

ただいま
絶賛発売中!!

第3期
公演
案内

漆原啓子
(ヴァイオリン)

と 練木繁夫
(ピアノ)

お昼のちょっとした時間、ヴァイオリンとピアノの演奏を聴いて過ごしてみませんか？ お友だち、ご家族、恋人と…もしくはちょっと贅沢にお一人で…素敵な音色があなたを包み込みます。ぜひ素敵なランチタイムをAOIでお過ごしください。

2011 1/14(金)
11:30 開演 (11:00開場) ※12:30終演予定
全指定 1,800
(静岡音楽館倶楽部会員 ¥1,620)
22歳以下 ¥1,000

第15回
静岡の名手たち
オーディション合格者によるコンサート

7月のオーディションに合格した、若き精鋭たちが力強い演奏で皆様をお迎えします。手に汗握る感動のステージにぜひご期待ください! 静岡から生まれたアーティストたちの新たな1ページが刻まれる!

2011 1/22(土)
18:00 開演 (17:30開場)
全指定 1,800
(静岡音楽館倶楽部会員 ¥1,620)
22歳以下 ¥1,000



親愛なる高橋アキ様

10月29日、この素晴らしい静岡音楽館AOIでのベートーヴェンのリサイタルでお会いできてとても嬉しかったです。お互い離れて過ごす時間が長いので再会はいつも嬉しいものですが、この前新宿でお会いして、お気に入りのバーに行ったのは2、3ヶ月前のことでしたね。

初めてお会いしたとき、私たちはダニエル・ロンバルディが作曲した前衛的な12台のピアノのためのコンサート・ピースに取り組んでいました。これは6人のオランダ人ピアニストと、同じく6人のイタリア人ピアニストによる共演でしたが、貴女はオランダ人ピアニストの中にいたと記憶しています。そのお陰でとても楽しかったことを覚えています。その当時、既に貴女は難解な現代音楽の弾き手としての名声を得ていました。それから程なくコンサートを聴く機会があり、貴女のクセナキスの「エオント」の解釈に心底驚かされました。あのような難しい作品を演奏するなんて、私の想像を遥かに超えていました。私だったら1ページを覚えるのに少なくとも1年はかかります。勿論試したことはないけれど。

その後、貴女に招かれて武生国際音楽祭に参加することになるとは夢にも思いませんでした。ここではドビュッシー、ホセ・マセダ、そしてモートン・フェルドマンなどの作曲家による2台、4台、または5台のピアノのための作品を共に演奏し、貴女の温かい音楽性に触れることができました。この地では、私のかつての弟子であり共演者の小島芳子さんとのデュオでフォルテピアノを紹介する機会を得ることができました。貴女がいたからこそ私は日本に来ることができたのです！

後に知ったことですが、貴女は古典派やロマン派のレパートリーをどんどん取り入れるようになって、現代音楽の作曲家と触れ合い、その作品をご自身のコンサートで演奏し続けました。今や貴女は、武満やクセナキス、フェルドマンら（ほんの数例に過ぎません）の演奏における第一人者となりました。

貴女がオランダに来るときは、必ずお会いしたいと思います。時には空港でしかお会いできないかもしれませんが、お喋りをしたり、互いの音楽界の知人について近況を伝え合ったりしましょう。私たちの会話ではユーモアは欠かせませんし、紡がれる話はいつも色鮮やかで愉快です。私に古典派の作品を弾いて聴かせることもありましたね。貴女の演奏するシューベルトは、武満やサティの演奏と同質の透明さと美しさを湛えていました。

オランダと日本、どちらでもまたお会いできることを楽しみにしています。
お元気で！

スタンリー・ホッホランド



10月29日 AOIにて公演の「スタンリー・ホッホランドフォルテピアノリサイタル」
撮影：日置光亮



コンサートを終えて、高橋アキさんと

スタンリー・ホッホランドから高橋アキへ

1 ミッシェル・ペロフ ピアノ・リサイタル 2003年6月3日（火）

「世界で一番素晴らしいピアニストは、ミッシェル・ペロフである」と、かつてメシアンに言わせたペロフ。30年の時を経て円熟したペロフが静岡に！



3 レイフ・オヴェ・アンズネス ピアノ・リサイタル 2008年10月23日（木）

北欧の至宝・アンズネスが静岡に来るとあって早くから注目！ドビュッシー、ベートーヴェンという全く異なった個性をもつレパートリーを彼ならではの巧みな技法で柔軟に披露。



2 ピエール＝ロラン・エマール ピアノ・リサイタル 2005年12月3日（土）

ドビュッシー、ブーレーズ、ラヴェル、シューマン、幅広いレパートリーを彼ならではの音楽性で観客を陶醉させた。



4 ファジル・サイ ピアノ・リサイタル 2010年7月3日（土）

半年前に登場したばかりのファジル・サイ！演奏に観客は熱狂し、拍手は鳴りやまないほど。もちろんアンコールは自作曲でした。



サインとともに振り返る！外国人ピアニスト編！

静岡音楽館倶楽部会員の皆さまへ

お名前、ご連絡先、銀行口座等、ご登録内容に変更が生じた場合は、速やかに下記までご連絡ください。
なお、平成23年度以降の退会をご希望のかたは、平成23年2月末日までに、静岡音楽館倶楽部事務局へ退会届をご提出ください。ご提出のない場合は自動更新となりますので予めご了承ください。

静岡音楽館倶楽部 法人会員（2010年11月末現在）50音順

- | | |
|---------------------|------------------|
| ● かわした歯科クリニック | ● (株) 静岡博覧堂 |
| ● (株) サンタモンコーポレーション | ● 鍼灸・指圧六音町ぬぐすい |
| ● 静岡ガス (株) 音楽部 | ● (株) タミヤ |
| ● 静岡ターミナルホテル (株) | ● 三菱電機 (株) 静岡製作所 |

特別協賛：

静岡信用金庫 TOKAI TAMAYA

支援：文化庁 平成22年度文化庁芸術拠点形成事業

次のことを予めご了承の上、チケットをお求めください。
皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

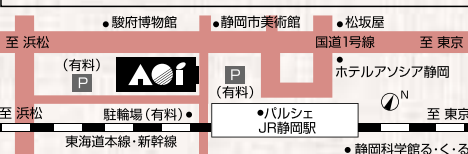
- * 価格は税込です。
- * 都合により内容を変更する場合があります。
- * お客様のご都合によるチケット代の返金、座席の変更は致しかねます。
- * 場内での飲食、写真撮影、録音・録画は固くお断りいたします。
- * 携帯電話、アラーム付時計等の使用はご遠慮ください。
- * 他のお客様の鑑賞の妨げとなる行為は固くお断りいたします。
- * 静岡音楽館AOIは、施設の構造上、会場準備が整わない状態（開場時間前）で、お客様を8階ホールへご案内することができないため、通常エレベーターは7階止になっております。開場時間になるまで1階エレベーター前か、7階ロビーでお待ちください（ただし、1階エレベーター前でお待ちいただいたお客様を優先してご案内いたします）。
- * 静岡音楽館AOIでは、小さなお子様にも良い音楽を聴いていただきたいと考え、未就学児童の入場を制限していません（22歳以下のチケットが必要です）。小さなお子様連れのお客様は、他のお客様のご迷惑にならないよう充分ご配慮ください。



託児サービス

要事前予約・託児料：一人¥1,000
すわん TEL.054-247-7477 (9:00~21:00)
留守番電話の場合は、お名前・お電話番号を録音してください。

JR静岡駅北口を出てすぐ左



* 当館専用の駐輪場・駐車場はありません。



CONCERT HALL SHIZUOKA

静岡音楽館 AOI

月曜日休館（ただし祝日開館、翌日休館） 9:00~21:30開館
〒420-8691 静岡市葵区黒金町1番地の9

お問合せ

054-251-2200

AOI

検索